

本 会 記 事

1. 平成5年度総会並びに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の平成5年度総会並びに研究発表会は、約160名が参加して、11月16、17の両日、徳島市眉山会館で開催された。

1) 総 会

16日午後1時から開催され、平成4年度庶務報告、編集報告、会計報告および会計監査報告が承認された後、平成5年度の事業計画、編集計画、予算および役員改選に関する諸案が上程され、承認された。なお、平成5年度の新役員には次の諸氏が選出された。

【会長】吉田 堯 【副会長】井上 齊、谷口 尚 【評議員】吉岡廣美、金磯泰雄、行成正昭、山本弘幸、都崎芳久、十河和博、石田典兄、上森実、橋 泰宣、古谷眞二、高井幹夫、山本 磐、岡田忠虎、山本孝彦、日本農業㈱、八洲化学㈱、アグロカネシ ョウ㈱ 【会計監査】北添貴康、浜口正憲 【庶務幹事】山本孝稀、妹尾芳江 【会計幹事】佐藤豊三 【編集委員】岡田忠虎、谷利一、岡本秀俊、平野千里、大口富三、市川俊英、古谷眞二、高井幹夫、山本孝稀、岩崎真人、佐藤豊三

2) 研究発表

16日午後1時50分から17日12時15分まで、つぎの16題の講演が行われた。

1. 芝田英明(愛媛農試)・安永忠道(愛媛丹原農改)

イネ内穎褐変病の愛媛県における発生と防除

2. 川西健児(香川病虫害防)・横山克至(山形農改)・井尻 勉(食総研)・宮下武則(香川病虫害防)・羽柴輝良(東北大農)

アメダスデータを利用した相対湿度の推定法の香川県における適合性と紋枯病シュミレーションモデルへの適用

3. 古谷眞二(高知農技セ)

数種植物及びシ ョウガの各品種に対する *Pyricularia zingiberi* の病原性

4. 奈尾雅浩(愛媛農試)・稲荷 傑(愛媛病虫害防)

トマト葉かび病の発病葉における *Hansfordia*

pulvinata による重複感染の確認

5. 楠 幹生(香川農試)・手塚信夫(野菜茶試)・三浦 靖・十河和博(香川農試)

カボチャ台キュウリ萎ちょう症状株から分離した *Fusarium oxysporum* と *Pythium aphanidermatum* の病原性

6. 辻 雅人(徳島果樹試)

カンキツ褐色腐敗病に対する薬剤の防除効果

7. 上田 進(愛媛経済連農技セ)

愛媛県の新しい花で発生した病害と対策

8. 竹内繁治(高知農技セ)

高知県の露地栽培トウガラシ類に発生する TMV の系統並びに ELISA による TMV 及び CMV の検出

9. 笹谷孝英(四国農試)・大植美香(徳島農試)

徳島県の露地キュウリに発生したウイルス病

10. 宮下武則(香川病虫害防)

四国沖定点におけるウンカ類の飛来状況調査

11. 後藤昭文(徳島病虫害防)

ハスモンヨトウの寄生蜂の生態に関する知見

12. 金崎秀司(愛媛農試)・稲荷 傑(愛媛病虫害防)・大政義久(同 南予)

吸蛾類によるナス果実加害状況

13. 松木保雄(香川病虫害防)・松本英治(香川農試府中)・鐘江保忠(香川病虫害防)

ゴルフ場における主要害虫について

14. 三浦 靖・楠 幹生・十河和博(香川農試)

キュウリ褐斑病と炭そ病に対する数種薬剤の防除効果

15. 矢野和孝・犬伏貞明(高知中村病虫害防)

薬剤耐性を示す灰色かび病菌の発生

16. 田中正宏・青木征男・後藤武司(大塚化学鳴門研)

新規カルシウム剤スタートアップ^Rの各種土壌病害に対する発病抑制効果について

3) 特別講演

16日午後3時20分から5時20分まで、徳島県果樹試験場大和浩国場長による「果樹の枝幹性病害あれこれ」、徳島県立博物館大原賢二主任学芸員による「ハナアブの話」の二題の講演が行われた。

4) 協議

17日9時から10時10分まで、平成5年度の病害虫発生の特徴とその対策並びに防除上の問題点について、徳島県：広田恵介，香川県：衣川 勝，愛媛県：松田 透，高知県：高橋尚之の各氏より報告が行われた。

2. 次年度大会

平成6年度総会および研究発表は、平成6年11月に高知県において開催されることが決められた。